

II 研究交流・教育・社会活動

(1991-1993年度)

平成6年度 部長類研究所自己点検・評価委員会

はじめに

研究所員が行った研究および関連の活動で、年報の研究業績発表の項目に掲載されないものについてまとめたものである。1. については研究所庶務係の資料より、2. 以下については、所員からのアンケート（海外出張者等を除く31名の教官からの資料）に基づいた。

1. 研究所に滞在した外国人研究者

(平成3-5年度)

(年度 氏名 年齢 国籍 現職 滞在期間 備考 順)

A. 外国人研究員

平成3年度

カデーナ アルベルト 53

コロンビア コロンビア国立大学主任教授

3. 7. 1~ 4. 6. 30.

平成4年度

アイバーセン I. H. 43

デンマーク ノース・フロリダ大学準教授

4. 6. 24~ 5. 4. 23.

平成5年度

新規招聘者なし

B. 招へい外国人学者等 無印 招聘外国人学者

◎印 外国人共同研究者

平成3年度

◎アルベルト ヌニエス 40

コロンビア - 3.10.13~ 3.10.26 科研費.

◎エレン イングマンソン 33

アメリカ ワシントン大学研究員

3. 9. 21~ 3. 8. 20 学術振興会.

平成4年度

なし.

平成5年度

◎バンバン スリョプロト 35

インドネシア ボゴール農科大学講師

5. 6. 18~ 5. 9. 17 ボゴール農科大学.

◎ウォルラーベン ベラ 25

ベルギー - 5. 6. 8~ 5. 6. 28 科研費.

イバーセン ハンス I. 44

デンマーク ノースフロリダ大学準教授

5. 4. 24~ 5. 8. 18 科研費.

◎ヘイズ バネッサ J. 27

オーストラリア

6. 3. 29~ 8. 3. 28 学術振興会.

2. 国際的研究集会

招待講演

Congress der Gesellschaft fur Primatologie, Bochum, GERMANY (1991 9.30-10.2)

ILRAD (国際動物病研究所) の研究集会(1991)

The Second Intercongress Symposium of The Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology (Chiangmai)(1993)

日米医学協力研究会会議、米国・アラバマ州立大学(1991)

International Primatological Conference Understanding Chimpanzees: Diversity and Survival (Chicago, December 11-15, 1991; The Chicago Academy of Sciences)

The Great Apes Conference: Conservation of the Great Apes in the New World Order of the Environment (Jakarta & Pangkaalanbun, Indonesia, (December 18-21, 1991, The Orangutan Foundation)

第22国際動物行動学会、京都 (1991)

シカゴ科学院シンポジウム「チンパンジー」、U.S.A. (1991)

第25国際心理学会 (1992)

国際比較心理学会、ブリュッセル (1992)

国際行動発達学会、ブラジル (1993)

第23国際動物行動学会、スペイン

「精神科学と条件反射」レニングラード、実験学研究所

「学習と記憶のシンポジウム」富山、富山医科薬科大学

International Conference: Peace Through Mind, Brain Science Hamamatsu (1991)

Brain Mechanisms of Perception and

Memory: From Neuron to Behavior (1993)
 Dynamics of Perception (1993)
 2nd International GABAB Symposium (1992)
 JRDC Forum for multi-disciplinary researches "Probing into the Brain" (1993)
 Functional linkage between the cerebral cortex and basal ganglia in the control of voluntary movement (1993)
 XIV Congress of IPS, Strasbourg (1992)
 2nd Intercongress Symposium of the Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology, Chiangmai, Thailand (1993)
 The 5th International Conference on Aspartic Proteinases. Sept. 19-24, Gifu, Japan (1993)
 第13回国際血栓止血学会 (アムステルダム) (1991)
 第14回国際血栓止血学会 (ニューヨーク) (1993)
 Global Forestry Forum (1992)

議長数

平成3年度: 2 平成4年度: 4
 平成5年度: 2

主催・企画数

平成3年度: 2 平成4年度: 2
 平成5年度: 1

3. 国際的交流・協力事業

(文部省科研費国際学術研究の代表および分担を含む): 「表題」、年度、組織・資金源、備考の順

「霊長類頭蓋学に関する研究」

1992年度(1992.6.1-1993.3.31)、毛利俊雄・文部省在外研究長期、スイス、フランス、英国、アメリカ合衆国の大学、博物館にて霊長類の頭蓋骨を計測、観察。

「日本学術振興会海外派遣駐在員ナイロビ研究連絡センター派遣」

1993年度、国松 豊・日本学術振興会

「アフリカ乾燥帯における霊長類の進化生態学的研究」

1991年度、代表: 日本モンキーセンター河合雅雄・文部省科研費

「ヒヒ類の種分化と雑種形成に関する生態学的集団遺伝学的研究」

1992-1993年度、代表者: 宮崎大学教育学部岩本俊孝・文部省科研費

「アジア産マカクの集団遺伝学的研究」

1992年度、川本 芳・研究所特別事業費

「住血吸虫類の遺伝子マッピング」

1991年度、平井啓久・日米医学協力研究会・ニューヨーク州立大

「アジアにおける日本住血吸虫類の種分化に関する研究」

1993年度、代表: 帯広畜産大学吾妻 健・文部省科研費

「東南アジアの霊長類の進化」

1992年度、相見 満・文部省在外研究、大英博物館、ライデン博物館、フランス自然史博物館の標本の観察

「コノハザルの分布の調査」

1993年、相見 満・委任経理金、インドネシア、スマトラ島でコノハザルの分布域を現地調査した。

「アフリカ生息霊長類の比較行動・生態学」

1991-1993年度、代表: 霊長類研究所杉山幸丸・文部省科研費、所内では松沢、大沢、山越、三輪、熊崎が参加

「アフリカ乾燥帯における霊長類の進化と生態学的研究」

1991年度、代表: 日本モンキーセンター河合雅雄・文部省科研費

「ゴリラとチンパンジーの種間関係についての生態学的研究」

1991年度、分担: 山極寿一・文部省科研費、ザイール

「ゴリラとチンパンジーの種間関係について」

1993年度、山極寿一・研究所特別事業費、ウガンダ・ガボン

「野生ピグミーチンパンジーの地域社会の構造と個体の生活史の研究」

1991年度(第2次)、及び1992年度(第3次)、代表: 霊長類研究所加納隆至・文部省科研費、京都大学を中心とする調査隊・課題番号02041049・野生ピグミーチンパンジー、及びチンパンジーの生態・社会に関する野外研究

「高所住民の発達した老化に関する生理学的研究—環境適応とライフコース—」

1993年度: パキスタン・中国、代表: 京都大学医学部堀 了平・文部省科研費

「霊長類種間交雑に関する研究（スラウェシ島での事例）」

1991年度、代表：霊長類研究所竹中修・大幸財団、渡辺毅（椋山女学園大学）・浜田穰（岡山理科大）・川本芳・藤田和生が参加・スラウェシマカクの雑種形成に関する学際的調査・スラウェシ島（インドネシア）

「知性に関する比較認知科学的研究」

1993年度、代表：霊長類研究所松沢哲郎・文部省科研費（国際共同）、小嶋祥三・藤田和生・友永雅己・Herbert Terrace（コロンビア大）・Richard Herrnstein（ハーバード大）等による知性に関する共同研究

「マダガスカルにおける昼行性原猿類の生態学的研究」

1993年度、代表：京都大アフリカ地域研究センター小山直樹、文部省科研費

「Working Memory and Prefrontal Cortex」

1991-1992, Human Frontier Science Program, アメリカエール大学のRakic, Goldman Rakicとの共同研究

「米国ハンブシャー大学分子生物生化学教室客員科学者」

1993.4-8、野崎真澄・米ニューハンブシャー大学

「タイ国におけるカニクイザルの調査」

1992.11、竹中修・私費

「インドネシアスマトラ島におけるカニクイザルの調査」

1993.9、竹中修・私費

「カニクイザルのグロビー遺伝子とマラリア抵抗性」

1993.11、代表：京都大学霊長類研究所竹中修・文部省科研費、竹中・P.Varabudhi教授によるタイ国内でマカクの捕獲調査

「サル類の飼育下繁殖システムの指導」

1991年度、松林清明・JICA専門家派遣、ケニア霊長類研究所

「熱帯多雨林の大規模山火事後の植生回復過程」

1992・1993年度、代表：京都大学霊長類研究所東 滋・文部省科研費、全13名・野外研究

「マカク属サル類の成長に関する研究」

1992年度、竹中・川本・Chulalongkora大P.Varabudhi教授らによるタイ国内でアッサムモンキー・アカゲザルの捕獲調査

4. 国内研究集会（研究所内開催分は除く）

	開催年度（平成）		
	3	4	5
招待講演数			
学術集会	10	19	23
社会教育集会	10	14	14
議長数			
社会教育集会	1	1	4
企画主催数			
学術集会	1	3	5
社会教育集会	0	0	0

5. 文献以外の業績発表および被紹介記事数

	年度（平成）		
	3	4	5
新聞	20	25	16
テレビ・ラジオ	3	3	7

6. 社会的学術活動

	件数
学会役員	41
学会誌等編集委員	12
文部省・日本学術振興会委員	3
自治体委員	1
その他の団体委員の等	3

7. 受賞

1991年度秩父宮記念学術賞受賞「京都大学ヒマラヤ医学学術登山隊1989-1990年の業績」

1991年、中山賞（中山科学振興財団）

1993年、各務財団優秀図書賞

1993年度日本動物学会論文賞「Zoological Science Award」ナメクジウオノハチェックのピットと脊椎動物の下垂体の機能的相同性

1994年度家畜繁殖学会学会員「島村賞」ニホンザルの季節繁殖リズムの発現機序

（94年度自己評価点検委員会：大澤秀行）